

2052	自閉的傾向に基づくパニック（暴力・無断外出）の改善と援助過程について	パニック発生の場面を検討し、支援プログラムを確立する。各職員がパニック発生が予想される際には、支援方針に沿って対処したことにより、落ち着いた生活を過ごせるようになった。
2053	学園生活への不適應の改善とその援助過程について	児童相談所から困難ケースとの告知あり、指導方針を何度も練り直し、関係機関とも連携することにより学園生活に適應し、社会自立に向けて作業訓練参加ができるようになった。
2054	夜間の睡眠を確保し生活のリズムを整え、精神的安定を図る	便・尿を口に入れるなどの問題行動が見られるので前施設での様子を聞き対策を検討。本人の状況を主治医に相談したり、日中の運動（歩行）等を確保することによって夜間の睡眠が確保され精神安定が図られた例。
2055	最重度の知的障害者の援助とかわり	粗暴行為の種類や原因についての行動観察、発作の誘因と見られる環境や原因の様子観察を基にした、職員の意志統一した援助の結果粗暴行為・尿失禁・便失禁が改善された。
2056	精神面の安定及び成長に関する援助過程	全職員が受容・許容の姿勢で安心感を持たせ一貫した援助の結果、不安定になる回数およびその度合いも軽減され、精神的安定が見られ単独帰省や料理を楽しむ等、社会的体験や幅が広がった。
2057	情緒の安定から身辺自立の向上が漸次見られた事例	作業に対する意欲がなかったが寮替えをさせた結果、作業場面で驚くほど能力を発揮し、意欲も向上した。生理の手当も習慣化する援助を続けていくと少しずつ効果がみられた。
2058	強度の精神障害による施設生活困難	職員の統一した援助の結果、状況把握や認識が少しづつできるようになった。更に居室も大部屋から二人部屋となり落ち着ける場所の確保もでき、生活全般が安定してきた。
2059	歩行の自立に伴う生活範囲の拡大とその援助過程について	車椅子を長時間使用していたため、体力の低下と肥満が問題となっていたが歩行訓練の結果、体力・持久力がつき肥満も解消され車椅子を必要としなくなるに至った。
2060	食事場面の改善について	踏み台などで姿勢を安定させる工夫、握りやすいスプーン等の使用食器の工夫により食事態度も改善の方向に向いた例。
2061	拒否の強かった机上課題に積極的に取り組むようになるまでの訓練における援助過程について	作業時、周囲からの指示や刺激に対し、自傷や他害などが見られたが、能力に見合った作業に従事することで自信を深め成功の喜びを感じられるようになり、好ましい人間関係構築にもつながった。
2062	裏むきになっている衣類を表返しにできるようにするための援助について	タンス整理時に衣類を表に返すことに確実に取り組めるよう、場面を設定し、声かけをしながら理解させ、到達段階を見ながら援助した。
2063	情緒不安定による移動拒否の改善について	生活指導と歩行の時間を多くとったことにより、職員と接することが多くなり、性格を理解されたことで情緒面も安定してきた。
2064	自閉症者への生活援助、強度行動障害改善事例	職員とのコミュニケーションが増えたことにより落ち着いてきた。また、統一した援助により問題行動も改善が見られた。
2065	強度行動障害者への援助過程について	他入所者への攻撃的行動や器物破損行動等には毅然とした態度で対応し、極力抑制しない方向での受容的な態度に心がけた。その結果コミュニケーションが成立し、生活が安定してきた。
2066	生活習慣における排泄の自立をめざし作業班を含め心身共の育成をはかる	職員との信頼関係をつくり、排泄面の自立への援助に取り組んだ。
2067	自傷行動の改善とその指導対策について	対人関係の影響が原因の1つであると考えた。周囲の環境作り、家族（主に父親）の協力、何より本人とのコミュニケーションを図り訴え・要求をくみ取ることにより自傷が軽減された。
2068	歩行力、脚力の現状維持とその援助過程について	歩行力が維持・向上することによって、自分から動いてトイレへ行く事が可能となり失尿の軽減につながった。職員との信頼関係も徐々に成り立ちリハビリが楽しいものとなり、やる気を感じられるようになった。

2069	異物を口に入れる行動の改善とその過程について	異物を口に入れない環境作り等をし、常に気配りをした。そのため問題行動は減少した。
2070	無断外出が多かった人へのその解消を目的とした援助過程について	何度もしていた無断外出の減少のために行ってきた援助過程についてまとめた。
2071	不眠についての援助過程	食欲不振が続き一時帰省するが帰園後に不眠が続く。状態観察をし記録を取り、職員とのコミュニケーションを図るなど様々な方法で対応して行くにつれ、食欲不振・不眠が改善された。
2072	社会自立に対する援助指導の実態	ランニングを始めたことより自信を持ち、それが作業面にも寮生活面でも生かされるようになった。実習により社会自立するためには何をしなければならぬか本人が自覚し、社会のルールが理解できるようになった。
2073	生活リズムの改善とその援助過程	集団生活の中で健康的な生活習慣が身に付くよう、常に意識させて意思確認をすることにより、自己主張ができるようになった。
2074	長期入院生活から基本的な生活習慣確立への援助	分裂病症状を呈し、長期入院生活を送っていたが、1日の時間帯を理解させ生活リズムを身につけることにより情緒的に成長し、感情をコントロールできるようになった。
2075	スプーンを使用して食事ができるようになり、失禁・不眠（昼夜逆転）が改善された	入所時 ADL が未自立な最重度者であったが、食事・排泄の訓練を重ね、経験を積んでいくことにより ADL が獲得できた。
2076	信頼関係の形成とその援助過程について	生活に慣れ、職員・入所者とコミュニケーションを図り信頼関係が形成できるよう、毎日散歩や食事等あらゆる集団の場に参加することにより自主的行動が見られるようになった。
2077	知的障害者施設の入所者について個々の課題が改善された事例	職員側が不安要因をできるだけ取り除き、言葉を持たないが理解力はあることを手掛かりにして、コミュニケーションを重視したことにより個々の問題は軽減した。
2078	生活リズムの再構築及び諸実習を通して社会性の向上が図られた事例	家族・本人・職員が同じ目標に取り組んだ。同能力者との居室編成は、良い意味のライバル意識につながり、生活面や作業への意欲の向上のきっかけとなった。
2079	居室内で食事を摂る事により拒食が軽減された事例	拒食・不安定の要因となっていたこだわりからの他の入所者とのトラブルを未然に防ぐことにより少しずつ情緒の安定が図られ、居室内での食事も安定してきた。
2080	頻尿・独語・不眠等の痴呆的症状への対応について	コミュニケーションを取りながら環境面での改善を心がけた結果、自発的行動が見られる様になり、居室にカーテンをつけたことにより独語も減少され、他入所者への影響も改善された。
2081	排泄の自立へ向けての援助過程について	おむつ使用をやめ定時排泄・トイレ誘導に取り組んだ結果、夜間の失禁は改善されなかったが、日中の尿失禁・便失禁は大幅に減少した。
2082	常同行動、自傷行動（興奮）の改善と身辺処理の自立。	生活習慣に慣れてきたことと職員が常に声を掛けることにより本人の理解を求めたことで、安定し自傷や興奮が軽減された。
2083	盗癖の改善とその援助過程について	他人のお金を取ることの罪の大きさ、他人の痛み・辛さも理解してきたので、小遣いを持ち自己管理をさせたところ、金銭トラブルがなくなった。
2084	問題行動の軽減とその援助過程について	家族との連携、本人の生活全般の構造化（個人の作業机、場所、コミュニケーションカードによる要求、日課表における予定等の明確化）を行い問題行動の減少を図った。
2085	本人の意思に沿って、心身の均衡状態、医療と生活の均衡を目指し、意欲的な生活の獲得を目指した事例	職員が本人の固定的イメージを払拭し、様々な視点から本人の生活をとらえ、家族とも連携して援助に取り組んだ結果、今まで以上に意欲的な生活が送れるようになった。
2086	著しいパニックおよび衝動的行動（他傷・無断外出）の改善についての実践事例	精神的不安定傾向が、パニック・自傷・他傷等の問題行動に現れた観察し、医療的対応について医師と共に検討した結果、投薬・行動療法を行って徐々に安定した生活を取り戻し、より良い相互関係を構築できた。

2087	新聞へのこだわりが原因で起こる自傷・無断外出等なくなるような援助方法の過程	新聞の渡し方及び保管場所などを職員側で統一し、こだわりを理解しコミュニケーションの改善を図ることにより、大きな自傷等がなくなった。
2088	U. H氏の転倒事故を契機とした安全対策の整備と実践の過程について、及び今後の生活について	高齢化対策（骨粗鬆症）を念頭に置き、歩行介助具等も工夫して転倒事故に配慮しながら体力維持に努めた。
2089	トイレの使用の改善及び、その援助について	トイレの正しい使い方とともに衛生面の改善に配慮した1対1の指導により、職員の確認なしでもトイレ使用可能となった。
2090	機能訓練による諸機能の維持増進とその援助過程について	長年にわたるてんかん発作による機能低下に対し、各分野が連携しリハビリメニューの作成と展開に臨んだ結果、歩行可能になり表情が豊かになった事例。
2091	固執、興奮の減少に向けて	作業種を本人のこだわりを活かした分野にし、作業環境を整え、また日課を理解しやすくして混乱を少なくした。
2092	作業を通して認められることのすばらしさを体験した。その援助過程について	周囲の職員、他入所者に本人の仕事を認め、誉めることによって喜びを感じられたことで、生活面でも明るく積極的な行動が見られるようになった。
2093	より豊かな施設生活を求めた過程について	作業時間以外は居室にこもりがちで何もすることなくごろ寝をしていることが多く見られていた。余暇時間を有効に活用して施設生活を楽しく過ごせる様になった例。
2094	肥満の改善とその援助過程について	試験的に廊下等での歩行・ランニングを行い、徐々に本格的な運動・食事制限を取り入れ、平行して別の運動（長拭き）を行った結果減量に成功した。
2095	徘徊が減少したケース	施設が改築のため移転となったことで、環境の変化と本人の食に対する興味の強さが結びつき、徘徊と食べ物の調達が頻回になった。食事摂取量の工夫、本人の興味を他に向けることにより徘徊が減少された。
2096	作品製作の意欲を高め向上心を養うとともに情緒の安定を図る	趣味・生きがい等を持たないため、より精神状態が不安定になった作品製作の楽しみや完成の喜びを味わせることにより、精神面の安定と向上が図られた。
2097	摂食機能の低下した入所者に対する援助について	食事援助全般について取り組んだ結果、「機能に見合う援助」を丁寧に積み重ねることで食事摂取が確実となりマナーも改善された。
2098	異食、自傷行為、つば遊び等の問題行為の軽減	行動観察を続けて要求の把握に努め、職員との関係を密にして、情緒の安定が図られた。
2099	排泄の失敗改善過程とスローペースな食生活の援助と改善方法	介助しながらそしゃく、嚥下の訓練を行い、食事へのこだわりが解消された。また、排泄の環境が安定するよう設定し、職員の援助を統一した結果、改善した。
2100	問題行動の改善 —破衣・弄便を主として—	便こねについては、医師との連携、規則的な生活による便秘の改善で排便がスムーズとなったことで、減少した。破衣については、衣類の要求にできる限り応え受容態度で接することにより安定し、行動は減少した。
2101	集団に参加できるようになった	職員とのコミュニケーションを増やし集団行動への参加を促すことで、散歩等を拒否することが少なく、日課にも参加できるようになり、中庭で1人で別に食事をとるといった特異な行動も減少した。
2102	既製衣類への移行と排泄習慣の改善を目標とした援助過程について	どの衣類も初めは激しい拒否的行動を見せるが結果として入所5ヶ月目には全ての衣類が着衣可能となる。排泄についても定時排泄の援助により2ヶ月目には排便尿ともトイレ使用可能となった。
2103	破衣行為の改善（下着も着用するようになった）	好みの衣類を選択させ満足してもらうようにし、職員の声かけについては、本人の望むとおりの対応をし情緒の安定を図り、破衣行為が減少した。
2104	著しいADLの改善とその援助過程について	排泄・歩行の記録表を作り、段階を経て援助した結果、排泄もオムツから1人でのトイレ排泄に、また歩行も手を引かなくても1人で歩行訓練コース（2km）を歩けるまでになった。

2105	生理ナプキンに慣れる	生理帯を嫌がりナプキンもつけていられず外してしまっていたが、生理用のガーゼパンツやパットの使用や工夫、職員とのコミュニケーション、本人の興奮を別の物にもっていく等の援助の結果、生理ナプキンを外すことが少なくなってきた。
2106	便秘改善について	在宅当時より便秘がちであったが、入所後診療所との連絡を取りながら、薬物療法、食事療法や運動療法により、便秘に対応し浣腸による対処療法から自力排便可能な生活ができるようになった。
2107	異食の改善とその援助過程について	生育歴の再調査を行い、いくつかの問題行動が遊びからの発展の形の1つと見方を変え、そこに重点をおき援助を行った結果、石の異食が改善された。
2108	徘徊・盗食をなくして、落ち着いた生活習慣を確立する	新棟に引っ越したことにより広い居住空間・許容的な環境になり、生活リズムが確立され初期の問題点が改善してきている。
2109	機能低下に基づく日常生活の見直し（起居・移動面について）	入所時に歩行が全くできなかったが、長い年月をかけて歩行訓練、歩行器具の工夫・改善をしていった結果、年齢的機能低下は見られるが日常生活において行動範囲が拡大された。
2110	生活能力の向上とその援助過程について	寮内での手伝いや仕事の自覚と積極的な取り組みができるように場面を設定する職員の意志統一をした援助の結果、洗濯物の区分けができるようになった。
2111	「達成」の喜びを知ってからの自己意識の変化	クラブ活動への参加によって視野が広がり以前と違った楽しさを見つけられたり寮内での自分の役割が確立できた。それが自信につながり積極的行動が見られるようになった。
2112	物に対して過度の固執に起因する、集団行動への不適応状態の軽減	固執物を職員との意思交換の手段として用いることで、新しい環境及び集団生活への適応が可能になるよう取り組んだ結果、物への固執が徐々に軽減し寮での生活に支障をきたすことがなくなっていった。
2113	作業意欲の向上とそれに伴う生活リズムの改善について	作業班を変わり、半日から1日の作業が可能となり、通所が順調になることと平行して寮での生活のリズム・全体像において改善が伺える。
2114	入所から26年間での基本的生活動作の向上と健康増進について	家庭では、日常生活の全ての点で全介助の状態であったが、入所を契機とし、食事・移動・健康等で特に問題なく過ごせるようになった。
2115	機能低下に伴う転寮後の援助過程について	本人の残存能力を機能訓練で活用し、生活全般でのきめ細かい観察と援助方法の工夫の結果、本人の生活が維持できた。
2116	心理的特性を理解しながら ADL 全般の変化について	一番の変化は、歩行不可能に思われた状態から車椅子に頼ることなく歩行ができるようになったことで、心因的発作の状態を寮職員が生活場面でうまく把握できたことである。
2117	リハビリテーション実施により頸随損傷後の四肢マヒが改善し、もとの生活寮までに復帰可能となった事例	受傷直後も急性期の医療的な関わりから、日常生活活動の訓練、そして生活寮への復帰に向けての調整を行うなど、幅広いアプローチを要した。
2118	リハビリテーションの実施より、最重度知的障害者の廃用症候群が、改善した	寮との連携・協力を密にしながら、様々な訓練に関するアプローチにより必要な運動を引き出し、比較的短期間で改善することができた。
2119	リハビリテーションの実施により、脳梗塞発症後の廃用症候群が改善した	医師からの処方箋に基づき、高齢者へのリハビリテーションを実施するにあたり留意した援助とその結果。

3. 安全のニーズ

番号	標 題	要 約
3120	他害、自傷を伴い、食事を投げてしまう入所者の食事指導について	食事介助に対する職員の意志統一と設備的な工夫により、利用者の食事時の他害・自傷が軽減された事例。

3121	自傷と、情緒が不安定になりやすい人への生活援助のあり方について	自分の要求が通らないと情緒不安・パニック・自傷を繰り返す。パニックになった後どのようなことで回復していったかを観察し、本人の性格や行動の特徴に合った援助を行った。
3122	他害（粗暴行為）の減少	本人の特徴、周囲の状況を的確にとらえて援助に臨んだ結果、落ち着いた生活を送れるようになった。
3123	徘徊及び無断外出、のぞき行為、水かぶりの改善とその援助過程について	水をかぶる行為が新たな問題に発展したため、物（煙草・酒）での欲求充足により、職員とのコミュニケーションを確立した結果、表情も明るくなり、改善された。
3124	パニック時の他傷行動の軽減とパニック時の対応について	パニック時は向かい合って注意して落ち着かせると共に、入所者全体のQOLの向上のため、喫茶・自動販売機の設置・合唱の取り組みを始めたことにより情緒の安定につながった例。
3125	頻繁な無断外出行動及びそれに伴う問題行動について	施設で与えることができる自由の限界を職員側が十分考慮し、保護者の理解と協力のもとで無断外出が軽減された事例。
3126	自傷行動の改善と援助過程及び当園入所移行の経過	本人の動き・要求を大切に、強制的な対応を行わないという援助方針に統一し対応した結果、自傷がほとんどなくなった例。
3127	行動障害（器物破損、他者への暴言・暴力）の減少について	行動障害により、他の入所者からの恐怖感や嫌悪感があったが、職員がケースの意思を理解することで行動障害が減少し、安定した生活を送れるようになった。
3128	ふらつきによる転倒に対するハード・ソフトの対応について	移動時の転倒防止のため、職員が常に介助することを前提として、歩行補助具や手すり等の福祉機器の利用と精神安定剤の調整を行うとともに、積極的なコミュニケーションをとることに努めている。
3129	長期にわたる向精神薬を中止したことにより本来の本人像が回復されつつあると思われる事例	前施設で問題行動抑制のために向精神薬を投与してきたが、当施設に入所してから生活に支障をきたす不安定な言動が目立つようになった。帰省時の母親の決断によって投薬を中止したことより状態改善がはかられた事例。
3130	著しい自傷行為の改善とその援助過程について	入所後の援助により自傷行為が改善された事例。
3131	粗暴行為の改善とその援助過程について	破壊行為や他害が見られたが、行動観察をし援助方針を決め、生活空間や日課の調整をはかり、他の利用者との関係を見直し、他害が減少した事例。
3132	無断外出の改善とその援助過程について	入所後の職員との信頼関係の構築の手順。担当職員と利用者の信頼関係の構築が、問題を軽減させた。
3133	他害防止の改善とその援助過程について	固執を受容し、注意しすぎないように対応していくことで、情緒が安定してきた事例。
3134	問題行動（興奮、暴力）の改善について	日課を設定し、安定した生活を促す。医療機関との連携により、与薬の調整をすることで、興奮が徐々に減った事例。
3135	意思疎通困難な人の行為を理解する	不快行動の意味を理解した上で対応したことで、職員との関係が良くなった。また、能力を発見し、受容することで問題行動の減少に成功した。
3136	著しい自傷行為の改善とその支援過程について	生理的ニーズを第一に考え心身の強化を図りながら、余裕のある日課の設定と本人に合った生活内容を職員が受容することで情緒の安定を図った。
3137	反すう、自傷行動による体重減の改善とその援助について	問題行動の記録をとり、分析・評価を繰り返して対応した。職員とのコミュニケーションを多くして精神面を安定させ、自傷の減少につながった。
3138	突発的な行動による危険行為の改善とその援助過程について	行動療法・薬物療法の効果が多々あり、落ち着いて集団の中に溶け込めるようになった。
3139	無断外出の改善とその指導過程	関心作業訓練やクラブ活動へと転換させ、更にそれらに責任を持たせることにより、就労等への意欲向上にもつながった。
3140	頻繁なてんかん発作を軽減するための援助について	発作が精神・身体の安定と深い関わりがあることを理解し、与薬や食事の管理を改善することで、精神的に安定した生活を送れるようになった。
3141	無断外出の減少とその援助過程について	記録を詳細にとり、分析や評価を繰り返し、対応を決めることにより改善された。
3142	自傷行為を軽減する	声掛けやメリハリのある対応を職員が心がけ、信頼関係を作りあげた。

3143	異常行動への対処とその援助過程について	行動観察や職員の対応の統一で、不安や緊張を取り除く配慮をした明るくなり、人との接触もスムーズになったが、依存度が高くなったように思われる。
3144	パニックなどの問題行動の軽減とその援助過程について	日課や作業班等の中で精神的負担を軽くし、職員・保護者・医療と連携してサポートしてきた結果、パニックを自分で落ち着かせようとするコントロールが芽生えつつあるようだ。
3145	著しい自傷行為の改善とその援助過程について	職員と接する時間を多く取り、本人の好むことを行う機会を増やし情緒の安定につなげた結果、自傷が軽減した。
3146	他害行為を頻発する自閉症者の援助とその経過について	特性を理解した上で対応方法を統一したため、刺激やストレス、人間不信が軽減された。また、生活パターンの確立とコミュニケーションの確立が情緒安定につながった。
3147	集団逃避の改善と集団参加への援助過程について	職員との関係を密にし、作業や行事への参加促進により、集団を意識し、その中に入ることが可能になった。
3148	著しい自傷行為の改善とその援助過程について	TEACCH プログラムを取り入れて、生活パターンを明確にし、不安定の軽減を図った。
3149	強度行動障害者の指導と処遇について	他傷行為があった場合、善悪の判断を明確にさせ、情緒が安定している時は賞賛した。精神科医と連携し服薬コントロールを行った。
3150	問題行動の改善とその援助過程について	職員は、本人の言動を大切に受け止め、それが理解できるよう、統一した方法で対応した。問題行動の要因の1つと考えられる帰省が、本人にもたらす精神的な影響を職員が理解し、納得できるような対応に心がけた。
3151	著しい自傷行為の改善とその援助過程について	本人の要求を受容し、生活環境や日課の調整をした結果、自傷行為が減少した。
3152	投薬調整と家族の協力による暴力行為の軽減	投薬の調整と家族とのコミュニケーションにより、暴力行為を軽減し、情緒の安定を図った。日常生活の中では、賞賛をし自信をもてるように接した。
3153	無断外出をなくし寮内で落ち着いて生活をする	日課の中で、善悪の区別を本人の理解するまで説明した結果、室内で落ち着いた生活ができるようになった。
3154	故意的悪戯と多動	本人の特性を知った上で、理解して受け入れることを基本とした対応に統一した結果、本人の善悪の理解度が高くなってきた。同じことを繰り返し行う中で故意的ないたずらも減少した。
3155	激しい情緒の変化、徘徊への対応について	1対1で職員とふれあう時間を多くとり、信頼関係を築いたことで精神的に安定し粗暴行為減少に至った。
3156	ものへの固執と他入所者への乱暴の改善	興奮の原因を考え、理解した援助を行ったことで、ものへのこだわりが少なくなった。
3157	ジストニアによる身体運動機能不全への援助改善	医療面との連携で、身体機能の改善を図った。本人の意思を受容した結果。
3158	M・Oさんの問題行動に対する取り組み	職員全体で話し合いを繰り返しながら問題行動に対処した。職員は接する時間を多く取り、コミュニケーションの確立を図った。
3159	激しい多動・異食・粗暴・いたずら等に対する処遇	行動を分析し本人が訴えていることを理解する努力をし、必要な行動・不必要な行動を本人がわかるよう、統一した対応をした結果、問題行動が改善した事例。
3160	不適応行動（失禁・独語・唾吐き・無断外出・睡眠障害・多動・こだわり等）の減少に向けての取り組みについて	水分摂取量の過多が精神状態に大きく反映することを推測した上で対応に臨んだ結果、多様な不適応行動が減少してきた例。
3161	強度行動障害を内包する利用者の生活援助について	安心して過ごせる場所の確保による情緒の安定、さらに職員を媒介とした他の入所者との関わりの方法等、自分の生活パターンを定着させたことでよりよい生活ができるようになったと思われる。
3162	著しい攻撃行動の改善とその援助過程について	本人の言動を認め、理解するという統一した対応により、職員とのコミュニケーションが成立、興奮状態が減少してきた。

3163	自傷・他害等行為の防止援助について	自傷・他害行為を観察・分析。要求を理解し、できるだけ受容する姿勢で対応し、ストレスをためないように援助した。
3164	痔核の露出による出血に伴う盆血の改善と、その援助過程について	服薬や塗薬による効果。
3165	周期的な多動による激しい自傷行為及び特異行動について	施設生活の中での習慣を理解してもらい、メリハリのある生活を配慮した。注意などをする場合は、本人が理解できるように説明した
3166	てんかん発作と食事介助について	医療の指示の下で、本人の特性を把握し対応したことが、食事のバランス良い摂取につながり、体調が改善した例。
3167	突発的な他害行為への対策について	職員とのコミュニケーションを確立し、その上で職員が媒介となり他の入所者との関係の安定を促した。
3168	異食行為の改善とその援助過程	異食行為は心因性のものが原因だと推察し、玩具を媒介として職員との遊びの場を増やしたことで情緒が安定し他者とのトラブルが減った。
3169	自塞状況にある問題行動に対して仮説演繹法による治療教育的取り組み	本人の問題行動の要因をあげ、分析しそれを基に治療教育的援助を行ったことで更なる本人の理解につながり、状態の改善がなされた
3170	無断外出がなく（少なく）なった事例について	集団生活の中で、本人が自分の位置を理解し、ルールを守る自覚が芽生えた。職員の統一した援助の結果、無断外出が少なくなってきた例。
3171	著しい自傷行為の改善、他害の減少とその援助過程について	安心した生活が送れるような環境整備に努め本人を受容し、他者との交流の拡大を促したことで、穏やかな情緒を形成することができた例。
3172	行動障害のある人の生活援助	投薬調整による体力の安定、職員とのコミュニケーションによる精神面の安定がはかられた事例。
3173	多動で飛び出しの多い重度自閉症児が、社会復帰の前段階まで育った援助例	多動で、行動を規制されると自傷があり、行方不明になることが多い重度自閉症児の問題状況が11年で安定した。現在、地域生活前段階まで参加できるようになった。
3174	他害行動の援助過程にみられる変化について	職員との1対1の関係、小グループでの対応と段階的に人間関係を拡大していく中でコミュニケーションが確立し、攻撃行動が減少した事例。
3175	興奮時にみられる器物破損行為の改善とその援助過程について	全職員が共通の認識をもって対応できるようになった結果、トラブル時の介在が早くなった。
3176	問題行動（ガラス割り）の改善とその援助	日常生活の中で、本人の要求を探り職員との関係を密にし、本人の情緒面を配慮した援助に徹し、安心していられる環境をめざして援助を行った。
3177	破衣・他害の改善	本人との関わりを多くし、理解するように努めた。また、居室変更などの環境の変化を図ることで他害・破衣が減少した。
3178	コップ等を投げて割る行為の減少もしくは消滅	本人の能力・性格を理解し、問題行動に対しては気長に説得する対応が有効だった。
3179	暴力行為と破損・破壊行動の改善	特性を十分把握し、問題行動は事前に防ぎ環境の変換をはかれるよう対応した結果、問題行動は減少してきた。
3180	入院による投薬調整とその後の対応面によって行動改善したケースの援助過程について	投薬調整により副作用が減少し、意志疎通が円滑に進んだ結果、コミュニケーションが取りやすくなって情緒も安定した。対応の統一や刺激の少ない環境は情緒の安定を助長した。
3181	他者を傷つける行為の改善とその援助過程について	他の入所者を傷つける行為が不満の解決につながらないことを理解させ、その都度面談し気持ちを落ち着かせる対応により、本人が混乱せず要求を訴えられる環境作りに努めた。
3182	他害行為における要因と対応策	職員との信頼関係を密にした。他害に対しては、迅速な対応に心がけ援助を行いその軽減につなげた。
3183	自傷や他者への攻撃がある人の脳梗塞後のリハビリと情緒の安定をいかに進めるか	設備と改善と職員のリハビリ等の機能や知識の習得により、車椅子から独歩へと回復し、その喜びが精神面の安定につながった。
3184	著しい自傷・他害の軽減とこだわり崩しの7年間の取組みについて	動作法や、清掃指導の中で本人に負担を与えると共に固執物やこだわりのパターンを理解し援助した結果、興奮・自傷などが軽減の方向に向いている。

3185	不純性行為及び執着行動の改善について	洋裁や刺繍などの作業に参加するようになり本人の興味が作業面に向いていき「作品を仕上げる」という達成感と周囲に認められるといった満足感を得たことにより精神的安定につながり、性的・執着行動も減少が見られる。
3186	自傷、他傷、物損行為の改善と援助について	作業内容を変更したことで本人の様々な欲求の解消ができ自傷などの問題行動が減少した。カンファレンスを繰り返すことで問題状況が明確になり、よりよい援助をすることができた。
3187	自傷と危険行為の軽減（改善）と不規則な生活態度の改善の援助経過について	環境（作業グループ、園内・外の実習）が変わって、本人自身の能力や良い面が見られるようになり、自傷・危険行為が軽減された。
3188	他害行為や自傷行為の改善とその援助過程について	徹底した1対1の対応で職員との関係が円滑になり、他害行為が減少した。
3189	頻繁な無断外出	無断外出の度に本人が自宅に連絡したり、施設周辺をジョギングしたり、ドライブに出かけたり等、無断外出への意識を他のことに向けさせ、その軽減につなげた。
3190	問題行動の改善とその援助過程について	暴力、盗み、器物破壊などで精神病院の入退院を繰り返したが、職員とのコミュニケーションを図ることにより改善した事例。
3191	問題行動の抑制と医療との連携	精神科薬を服用し、始めは安定していたが薬の減量中に問題が再出医療と連携をとりながら対応していき、落ち着いた生活を取り戻した。
3192	最重度知的障害者（脳性小児マヒ）の機能訓練について	医師より指示された歩行訓練・筋肉をつける開閉運動・平衡感覚をとる訓練を実施。保母・指導員が携わるが機能低下防止訓練であり下半身の衰退・機能低下は否めない。
3193	精神不安定による問題行動の改善とその援助過程について	パニック状態に対して、母親にも協力してもらい本人を全面的に受け入れることによりパニックが軽減された例。
3194	訓練による機能の維持増進について	本人が意識を持ち、歩行器を使用した歩行訓練から段階を踏んだ援助の結果、2年間で歩行可能となった。
3195	問題行動（特異行動）の鎮静化に向けての指導・取り組みについて	精神科医師との連携により、投薬を調整し、意欲的放置で自らの身の処し方を体得させる方法で援助をしていった結果、問題行動が鎮静化した。
3196	情緒不安定による暴力行為の改善とその援助過程について	ケースの特性を理解した上で、生活全般における処遇のあり方を職員が考え対応を統一するソフト面と、個室提供により精神安定へ働きかけるハード面との2方向からの援助過程。
3197	パニックになった時のかみつき、物の破損等の行為を軽減するために	表情や言動の変化を察知し、感情の刺激をさけ、情緒の安定を促し1つのことに集中できるような援助を行った結果、生活のパターンに対応し、自己抑制もできるようになった。
3198	無断外出・徘徊の減少	日課（歩行訓練・作業）の充実を図る。職員は常に本人を視野に入れ、把握するようにした。徘徊行為から他に目を向けるような環境作りを行ったことがその減少につながった。
3199	著しい自傷行為の改善とその援助過程について	職員の指導上の意志統一。向精神薬服用の効果の結果、自傷の傷やあざは消失した。
3200	異食の軽減について。自傷の軽減について（基本的な生活習慣の向上）	職員の意志統一した対応により、異食物の種類・頻度の減少、異食に伴う徘徊の減少と改善が見られた。自傷についても薬をつける習慣により、減少した。
3201	無断外出が少なくなり、悪戯・破損行為（車両）が減少した	破損行為防止のために、興味対象車両の移動・保管場所の配置・施錠をすると共に、定期的なカンファレンスを実施し、受容・容認と了解的対人関係に努めた結果。
3202	種々の問題行動の減少とその援助過程について	職員は、声かけのタイミングに注意し、本人を刺激しないように接触の場を多くした。結果、徐々に重ね着の回数が減った。拒否・破衣などもほとんどなくなり、興奮も質・量とも軽減し好ましい変容が見られる。
3203	徘徊行為の改善	確実な日課への導入ということで作業部との連絡を密にして援助した結果、徘徊はかなり改善された。

3204	他者、とりわけ職員への著しい粗暴行為の改善とその援助過程について	薬物療法を用いることにより、緊張感、不安感が軽減できた例。
3205	著しい行動障害の軽減に向けて	作業への参加、寮内での役割を決めることにより、力を発揮することができると共に時間を有効に使えるようになった。結果的に、一日の生活の流れや過ごし方を見つけ、興奮や混乱が減少した。
3206	著しい粗暴行為の改善とその援助過程について	粗暴行為の誘因となっている情動面について職員は、本人との関わりを増やし、受容的態度で接した。結果、安定し粗暴行為は減少した。
3207	自閉的傾向があり、問題行動を持つ入所者への作業場面における改善例について	本人の興味関心を引くもの、本来の性格にあわせたことに注目したため、効果がみられ問題行動の軽減及び除去につながった。
3208	異食行為と他害行為を心理治療で改善した事例	心理診断による行動分析を心理治療による学習形成で改善した結果、問題行動の減少につながった。

4. 人間関係・自己実現のニーズ

番号	標 題	要 約
4209	接枝性分裂病を持つ利用者の問題行動に対する援助過程について	生活環境を変え状態に応じて職員が対応する。それと平行して他利用者の理解も求める。また、自活訓練に行かせることで責任感を養わせた。その結果問題行動の減少がみられた。
4210	強度の固執傾向の利用者の速やかな施設への移行について	暴力・強度の固執傾向を持ち、対人関係が構築されていない利用者を、病院から施設へ移行させる際の援助の手順。
4211	他の利用者に対する人間関係（依存性）の改善について	落ち着かず、多動で他人の物を盗んだり粗暴行為、利用者に依存ししつこくつきまとう等の問題があったが、本人との意思の疎通が図れるようになり、パニックも消失し安定した生活を送れるようになった。
4212	挫折状態から再訓練により就労自立をめざした事例	生活自立訓練（単独生活）を目標に、まずは、規則正しい生活のリズムを身につけ、次に金銭管理、職場実習等を経て就労につなげるようにした。
4213	躁鬱病をもつ知的障害者に対し、情緒安定を図り落ち着いた生活の場を提供していく取り組み	夜間不穏、放尿、物への異常な執着等、興奮状態が頻繁に見られる入所者だが、職員の躁鬱病に対する知識の習得と受け入れを基本とした対応の統一により、落ち着いた状態が維持できるようになった事例。
4214	歩行機能改善及び著しいコミュニケーションの拡がりのある事例について	歩行訓練により、歩行が安定し、表情・仕草が非常に豊かになり、行動や言葉によって、はっきりした意思表示ができるようになった。
4215	職場実習を通しての心の成長～コミュニケーションの工夫	自分の気持ちをうまく表現できず、些細なことで興奮し、就労は困難とされてきたが、入所9年目にして職場実習を開始。実習への意欲を媒体にし、対人関係・気持ちの表現に力点を置いた援助の過程。
4216	激しい癩癩行動の軽減とその援助過程について	癩癩が多く他の入所者に嫌われてしまい孤立化してしまうため、意思の伝達方法を教育することに援助の重点をおいた。
4217	最重度者の心のふれあいと感動を求めて	発語なく言語理解の乏しいケース。入所者の要求を捉え意思表示を理解し、職員を受け入れてもらえるような援助が大切。
4218	作業を通して人間関係が広がり、意欲を持って作業に取り組む様になった事例	職員とは話す、他の入所者と話したがらず、トラブルが多かったが、家族の支えと友人の信頼などによりトラブルも減り、作業にも意欲的に取り組むようになった。
4219	自閉性障害の改善及びパニック状態の発生を防ぐための方法について	交換日記を通じて本人の考えていることなどがわかるようになり、働きかけに対する反応も見られるようになった。
4220	精神的な安定をめざす処遇の試みとその援助過程について	何回か他の利用者とのミーティングを持つうちに本人への理解が深まり、本人の居場所が明確になった。

4221	入所施設への適応とその経過	精神分裂病質であることを理解した上ででの対応により、以前に比べ安定した生活を送れるようになった経緯。
4222	余暇時間を通して音楽を楽しむことができるようになった事例	音楽には、多少興味があるようで、好きな音楽が流れているときには腕を上下に振る動作が見られていた。ラジカセのボタンすら理解できなかったが自分でボタンを押そうとする動きが見られるようになった。
4223	作業、係活動の中で楽しみが見つけた事例	屋外班から室内班に移動し外注作業に参加した。職員側はあせらず長い目で対応するよう統一。本人の意欲を尊重し、いろいろな活動へ積極的に参加を促した結果、少しずつ楽しみを見つけメリハリのある生活を見出した。
4224	スポーツ、ゲームを楽しむようになって生活態度が良くなった。	スポーツの大会での優勝を契機に、職員との関係に積極性が見られるようになった事例。
4225	就職活動と人格形成の改善およびその援助過程について	職業センター・職業安定所と相談、協力を依頼する。本人の意思を尊重して、職員の意志統一をした援助の結果、精神安定が図られ性格も明るくなった。
4226	他の利用者への著しい挑発による問題行動と保護入院の軽減および、その援助	本人への積極的な個別指導と援助、保護者への協力依頼、医療面からの援助指導、職員とのコミュニケーションと信頼関係によって、極端な興奮はほとんど見られなくなり生活上に問題はなくなった。
4227	処遇困難者の個別処遇の取り組み	TEACCH プログラム理念に基づき個別プログラムを作成し、「場」の設定と「方法」の変革をすることが個人に変化をもたらし行動の改善と精神的安定につながっていくことを実証した。
4228	社会復帰の可能性をもとめて（実社会から学ぶ ADL）	社会復帰の実習にしても段階を4つに分け期間も3年間かけた結果、寮内においての ADL 全般に対して、自分自身で気をつけ注意することができるようになった。また、リーダー的行動もとれるようになってきた。
4229	情緒が安定し人間関係が良好になり労働も安定して継続が可能	職場実習、グループホームでの地域生活体験などにより施設からの自立を図った。地域生活移行に向けての援助の中で自己実現に結びつく手段を講じて安定が図られ継続が可能となった。
4230	実習開始により生活が落ち着き始めた事例	他者とのトラブル、帰省関係の情緒不安定時には無断外出を防ぐ。職員と本人の信頼関係を十分育てていく。実習を始めたことにより精神的に安定した生活を送れるようになった。
4231	スプーンを使った食事を（H7年当時の取り組み）	スモールステップによる方法で段階的に援助し、拒否したときは前段階に戻すようにし無理強いはいしない。左利き用スプーン ADL 食器を利用している。時々手づかみで食べることもあるが長い目で見ていきたい。
4232	他害行為の軽減とその援助過程について	医療との連携、職員の意志統一、本人の行動の全てを受容し本人からの働きかけを見逃さずきちんと対応した結果、本人が意思を出すようになり信頼関係が得られたため他害行為が減少した。
4233	対人関係作りの経過と課題	入所からの4年間を通して、まだ不十分ではあるが生活習慣が少しずつ身に付いていき、対人関係における信頼感も持てるようになり、本人も穏やかな精神状態が保てるようになった。
4234	園芸療法プログラムは「花と緑」生産を生かして	園芸療法によって重度・中度・軽度の段階別に仕事分担を決め目標を設定することにより、本人の生きがいと社会への参加（収入を得る）等の喜ばしい成果が得られた。
4235	異性に興味があり接触を求めるが反面性的被害者となる女性への援助過程について	異性に好意を抱く感情は理解し大切にしていきながら本人の能力に応じた性教育を行ったり、手芸・スイミングを始めるなど他のものに興味を持たせる等の援助の結果、現在のところ問題は出ていない。
4236	社会性、対人関係における援助過程について	職員との信頼関係が成り立ってくると会話、笑顔、自らコミュニケーションを求めてくるまでになり、不眠・徘徊・無断外出などの問題行動が減少し、精神的安定と穏やかな対人関係が図られるようになった。
4237	集団生活の中で自分で生活を創り始めたAさんのケースを通して考える	未就学、人間関係の狭さ、経験不足に加え難聴と知的障害という様々な要因がからみあいその能力を発揮できず、問題行動が見られたが、それぞれの視点からアプローチし働きかけたため問題も整理されていった。

4238	退院（心気神経症による入院）に向けての取り組み	入院中の6回の外泊訓練の中で入院生活より施設での生活の方が楽しい事を理解させ、担当職員、他の利用者とも十分な会話や交流の場を作り集団生活にもとけこめた。
4239	入所間もない中等度者の社会復帰へ結びつける一援助過程	集団生活の中で日課を守り良い生活リズムの中で他の入所者や職員と関わりながら、微細だが変化が見られた。本人の示す様々な特異行動に対し、押さえつけでなく根気よく説明・理解するような援助の姿勢を続けていきたい。
4240	不適応行動（幻聴・幻覚・暴力・暴言・水飲み・トイレがよい）に対する軽減への援助過程	保護者との連携・具体的アプローチ（過干渉・過保護の為）、職員間の意志統一、本人に目標を設定し自信・意欲を持たせる様な援助によって不適応行動の減少が図られた。
4241	反社会的行動の軽減とその援助過程について	問題行動に対する指摘のみでは応じないこと、落ち着いた状態であれば伝わること、ストレス刺激に対し過敏であること。それらを排除すれば本人にとって落ち着いた生活を送られる事が証明された。
4242	一人帰省実施によって感情コントロールが出来るようになったケースの援助過程について	事前学習や職員が付き添い帰省を3度行い、自信がついた所で、実際に1人での帰省を実施。その結果、他の入所者とのトラブルは減少し、また、就職したいとの自立への意欲もでてきた。
4243	趣味の開拓とゆうあいピック出場という目標達成までの援助過程	練習会、選手選考会に参加していくことで、本人の中でボーリングが目標となり意欲的に取り組む。ゆうあいピックの選手になり本大会でも自己ベストの記録を出し、メダルは取れなかったが本県勢トップの成績を取る。
4244	安定状態を維持する工夫～長期不安定からの脱出～	医師の協力を得て薬物療法を取り入れ、家族の協力や励ましを随時取り入れ家族の絆を大切に。実習への意欲を促し、職員との信頼関係をもつことにより精神状態の安定が図られた。
4245	無断外出の防止と集団生活に慣れるための援助過程について	職員とのコミュニケーション、作業参加（本人の意思）等集団生活にも慣れ徐々に情緒不安定も問題となっていた無断外出も減少してきた。
4246	拒否的行動パターンの改善とその援助過程について	母親との関係改善・週末帰省の実施、大きな集団から小さな集団に移行し、より手厚く援助する事で問題行動の軽減が図られ作業などの自主性が見られ表情も豊かになってきた。
4247	集団生活における適応困難の改善とその援助過程について	自閉的傾向が強く、日課もほとんど参加できず、拒否していたが朝礼のみ参加を徹底し意識づけをし段階を追って参加の幅を広げていく。他者との関わりを楽しむ事も多く表情も豊かになり集団生活適応が出来るようになる。
4248	著しい情緒不安定の改善とその援助過程について	本人のやりたいことや希望することをできる範囲で認め、援助していくとともに、本人の行動（手伝い）等は誉めて認め、コミュニケーションを常にとることにより情緒不安定が改善された。
4249	著しい情緒不安定の改善とその援助過程について	情緒不安定・粗暴な行動などの問題となっていたが情緒不安定の原因追究、援助方針・方法の検討を繰り返し、職員の対応・意志統一、医療との連携及び投薬の調整により、情緒も安定し笑顔が見られるようになった。
4250	情緒不安定による他害と精神的ケアの対応について	母親との2人暮らしから集団生活へと環境が一変したことがストレスとなり他害行動が問題となったが、コミュニケーションや行事参加によって気分転換をはかっていくことにより集団生活でのストレスが減少してきた。
4251	パニック行動の改善とその援助過程について	パニックの原因を理解し早めに対応することにより、自傷行為・他害など粗暴行為の減少がはかられた。
4252	無断外出と盗癖	自分の物と他人の物の区別を理解させたが、盗癖止まず家族・医師との相談にて精神薬服用の結果、情緒の安定が見られた。
4253	達成感を味わえる目標の設定により何でも積極的に取り組む様になった事例	本人の余暇活動（自由時間・旅行・絵画）、身辺整理の幅を広げ認めて誉め、期待をし自己満足を味わせることにより粗暴行為の減少、意欲的な生活態度が見られるようになった。
4254	社会性・自主性の確立の援助と経過について	本人の得意とするスポーツ等を通し、意志統一による援助の結果、本人の生活意欲の向上が増進し、無断外出・暴力等の行動が減少した。

4255	ワイシャツのボタンどめと衿芯、ポケットのアイロンかけの作業等を通して社会の一員として役割分担をしている	職場実習開始、グループホームでの基本的な生活習慣の確立、それぞれのライフステージでの支援により本人の自覚が芽生えた。
4256	籐工芸作業を通して専門的技術の進歩、向上につながった事例	自閉的傾向のある入所者について、本人の興味ある籐工芸を指導することにより指導員の呼びかけにも反応し自ら方法を聞く等、意欲が見られ、持続性・集中力が芽生え人間関係の育成にも役立ってきた。
4257	ジェスチャー（本生独特の身振り動作）によるコミュニケーションについて	身振り動作は適宜教えられてきたが、訓練等は受けておらず自分自身で発達させてきたものであり、今ではジェスチャーで興味・関心・日常生活に必要な意思の疎通ができるようになった。
4258	他者に対する攻撃性の改善とその援助過程について	各種問題行動の背景を考察すると共に、日常生活場面での留意点を確認し、職員の統一した対応と受容を基本とした援助により改善の糸口が見えてきた。
4259	職場実習を通して根気強さと労働意欲が向上し、自立へ向けての自覚がうまれてきた。	援助内容や方法に対して職員全体の意思統一が図られ、本人も職場実習に対し意欲的に考えられたことにより“中間施設を経て社会自立を目指す”という一歩が実現した。
4260	経験実習を通して住み込み就職からグループホーム利用までの事例	自宅通勤を通して家族との関係が深まるとともに、自立生活訓練や実習で技術と自信が身に付いた。施設と家族との密な連携により、社会自立に至った。
4261	情緒の安定、他の入所者の受容	トラブル時、不平・不満があるときを中心に職員・他入所者と話し合いの場を持つことにより、完全ではないが情緒的に安定する傾向が見られ、自分の非を認めたり他者の立場を理解しようという姿勢が見られるようになった。
4262	スポーツ、作業によって問題行動が改善された事例	スポーツ・作業・自立訓練を通して、態度から優柔不断さや落ち着きのなさが徐々に改善された。
4263	単独帰省に関わる援助について	家族の了解と協力を得て職員同行での帰省学習を開始し、不安な場面はあったものの現在では帰省時に車窓から見える風景や人の出会いを楽しみにしており、生活面でも自分の能力や言動に自信がもてるようになってきた。
4264	空き缶つぶし作業ができるようになった過程について	ふらふらと出歩き、器具の前にとどめておくことすらできなかった本人だが、毎日の繰り返しと本人に適した補助具の工夫や援助により、たとえ重度といわれる入所者でも必ずできる仕事があるということを深く学んだ。
4265	家族間に問題のあるケースの精神安定と帰省への援助	様々な作業班を経験し、部屋長として積極的に他の入所者にかかわれるようになったことで家族が本人を認めるようになり本人もその自信が精神的安定につながっている。
4266	陶芸班内での作業の持続と技術の習得及びその援助過程について	1対1の指導を継続させ、本人の活躍を認めて意欲を引き出し、得意な仕事は自主的に進められる程度の技術を獲得し、責任をもって取り組むようになった。
4267	強迫神経症に悩む入所者が、社会就労の挫折から学んだ教訓を生かした事例	本人の要求を聞き入れ、職員が理解・共感をすることで、受容感を体験させ、固執の緩和につながった。
4268	コミュニケーション機能向上のための援助過程	日常生活の中で、絵カードを用いることにより、意思を伝える手段を獲得し、自立活動が増大した。
4269	自己実現の意欲の高揚に伴う生活態度の改善	対人関係・信頼関係を築き、役割を遂行することで、生活意欲の向上を目指し、その中で自立に向けての労働意欲や生活リズムの維持・確立を図る。
4270	他の利用者との人間関係におけるトラブルとその対応、処遇について	いたずらの都度、職員が厳しく注意するという対応を統一して行い、また生活の中で役割ができたことにより関心がそちらに移って自覚と喜びを持つようになった。
4271	一人でいることを好む人を他の人と過ごせるようにする	本人が落ち着ける場所を確保し、余暇活動を充実したことで、安定した例。
4272	安心してできる生活を求めて	受容を基本にして援助方針を組み、絶えず1対1で対応した結果安定した生活を送れるようになった事例。
4173	著しい粗暴行為の改善と情緒安定を得る過程	集団生活の中で、生活のルールを理解・適応させ、言葉で意思を伝達するよう促し、情緒の安定を図った。

4274	情緒が安定し寮の日課にスムーズに参加できるようになった	情緒不安定であり集団の一員として行動がとれず食事・入浴・散歩等を拒否することが顕著だった。薬物療法と本人への働きかけの工夫により改善された。
4275	情緒の安定化と問題行動の軽減（破衣行為の改善）	対人関係の確立が困難で、精神的に不安定な時には拒否行動や破衣行為が見られる。行動観察を行い不安定要因の理解と働きかけにより安定するよう心がけた。現在は、不安定を事前に察知し、声掛けや直接指導により極端な拒否行動は減少し、破衣行為も改善された。
4276	自主性が芽生え意欲がでてきた。歩行が安定し、転倒が少なくなった	本人の状態を多面的にとらえ、継続的な指導、援助を行った結果、徐々に生活の中で自主性がでてきた。
4277	情緒安定について	寮生活の中でトラブルが絶えず落ち着いた生活ができなかったが、情緒の安定のため生活環境を整え、作業に参加するようになり、以前に比べてトラブルが減り落ち着いた生活ができるようになった。
4278	正常な人間関係の形成を図る	行動障害の観察と分析、オペラント条件づけによる「正常な対人関係形式」の学習の成果があり、行動障害の質・量・種類共に、大幅に軽減、除去された。
4279	警戒心の緩和により、健康診断等の拒否行為をなくす	共に協力して仕事を行い職員との信頼関係を深め信頼関係がとれた職員順に診察・検査・治療等を共に行動しクリアしていくことにより、健康診断等拒否せず受診できるようになった。
4280	コミュニケーションが取れるようになり、対人関係が改善された	作業、ソフトボールクラブに参加することにより他の入所者との仲間意識が芽生え、良好な人間関係ができてくると共に精神的安定が図られるようになった。
4281	対人関係の改善	言語表現を拡大させ、自発性を強化できるよう、セラピーの実施と職員の統一した対応で長期的に取り組んだ結果、言語による自己表出、積極性、人間関係の円滑化等、安定した生活が送れるようになった。
4282	無気力で目立たぬ存在から、積極性が生まれ、行動が意欲的に変化するまでの援助過程について	新しい入所者の面倒を見るということ为契机に自我の伸長が顕著となり、介助を要する入所者の世話に始まりベッドメイクなどの手伝いや仕事を通じて本人の出番の促進が図られ、生活感の充足につながった。
4283	パニック行動の改善	セラピーの実施と対人関係への配慮、社会的体験の拡大を図る中で安定した生活を送る様になり、小動物の世話などを通じ責任感も生まれ、対人関係が円滑になりパニック行動は減少に向かっている。
4284	興奮、粗暴行為、拒否行動の軽減と寮生活への適応	事前に繰り返し本人に働きかけ、納得した上で行動するようにし、役割分担を徐々に増やした。その結果寮生活にも適応し、興奮・粗暴行為も減少した。
4285	S. Oさんの精神的安定（成長）に向けて	本人を全面的に受容する姿勢で対応する方針として、本人の好む作業班への参加、楽しみ、余暇時間の充実を図った結果、本人は安定し積極的行動が見られるようになった。
4286	K. Sさんの精神的安定（成長）にむけて	「傾聴班」「生活能力調査班」「生活基盤の整備班」「身体調査班」の各班を設定し取り組んだことにより精神的安定（成長）が見られ日常の生活が安定してきた。
4287	入所者の声に耳を傾けて	職員の対応がまちまちで本人の混乱を生んでいることが判明したため、「要求を受け入れる」という方針で統一を図ったことにより、本人に安心感・満足感を与えることができた。
4288	自傷行為の軽減とその援助過程について《代償的行為の確立と人間関係の改善を通じて》	代償的行為が本人の趣味的なものとして確立できたことにより、精神的安定を図ることができ、自傷行為の毛髪抜きが消失した。
4289	無断外出を主とする問題行動の改善とその援助過程について	無断外出につながるゴミ捨てについては職員との信頼関係を築く中から規則を設け、具体的・視覚的な形で理解を深めていく援助を行った結果、現在では無断外出はほとんど見られなくなった。

4290	孤立的で対人関係に不安を持っている対象者への援助過程について	ADL 指導を基盤とし、本人を取り巻く人間関係の確立と拡大を目標として、職員と本人との接触を多くするような援助を行った。その結果、問題行動が減少した。
4291	日常孤立的状態を呈し、集団参加への自発的行動が伴わない人への、その改善と援助過程について	生活リズムの確保を重点的な援助目標に据え長期的視点で援助した。生活環境に慣れて安定した生活を送れるようになり、自発的行動も見られるようになった。
4292	作業により自己実現を図る	身体的理由により長い間本人が希望していた作業種の変更により、変更後の作業に対し積極性がみられ、精神的広がりにもつながり自己実現の手助けとなっている。
4293	作業内容の変更に伴う作業意欲の向上とその援助過程について	上・下肢麻痺がある為作業内容が固定されマンネリ化していたことから、作業変更を試みたところ作業に積極的に参加する様になり作業意欲の向上が見られる。
4294	治具による作業技術習得への試み	知的能力の低い入所者に対して、高度な技術を行わせるためには、能力にあった道具の工夫が必要であり、その用具を使い作業技術を習得した結果、作業意欲が向上した。
4295	作業種の変更（主に印刀による彫刻から糸鋸盤による切り抜き）	彫刻刀による彫刻作業が（筋彫り）主な作業種であったが、本人が機械に興味があること、手先が器用である事等特性を活かして、より高度な技術を要する万能糸鋸盤による切り抜き作業に移行した例。
4296	調味料入れ・ペン皿・盆の叩きノミによる彫刻技術の向上	調味料入れ、ペン皿の彫刻技術が向上し、作品になってきた時点で、同じ工程と同程度の技術力で製作可能な角盆へと作品の幅を広げ、更に最近ではその技術を応用し次のステップへのチャレンジが見られる。
4297	受託加工作業工程への参加を拒否する入所者へのアプローチ（針並べ作業）	新しい試みに対し何事も拒否的であるが、何度も説得し職員が付き添ったり、又作業の進行状況により進め方、道具の工夫により作業ができるようになった。
4298	作業種変更刺繍から織物へ	作業種変更後、ペースは遅いが前の細かい作業より合っているらしく、自信を持って取り組めるようになり、不安感を持ったり泣き出す様なことはなくなった。
4299	新作業種、リジット機による裂き織り導入により、作業意欲の向上を図る	リジット機による作業に変更後、精神面の問題は著しく軽減し、能力的にも細かい作業を要求しないので理解しやすく、また対人関係においても落ち着いており意欲的に取り組むようになった。
4300	作業技術の習得・向上	羊に対して強い恐怖心があったが、接する機会を設定し、繰り返し行う作業の中から理解を深めさせた結果、自主的に取り組む姿勢を養うことができた。
4301	共同作業としての篩い作業を基礎作業として新たな作業を習得する。併せて、体力の増加を図る	積極的に作業を行い80%以上の高い参加率で頑張っており体力もついてきた、徐々に任せられる作業種ができてははじめ、その結果を増やしながらグループの中堅的存在に成長してきている。
4302	電気ドリルによる椎茸原木への穴開け作業	治具を使用した穴開けの反復練習により指示のみで穴開けができるようになった。作業スピードも上がり作業意欲の向上・技術の習得にも結びついた。
4303	作業指導についての一考察…生産物の販売とふれあい…	生産物の配達・訪問販売を作業に導入し、販売担当者として意識づけることにより、班内での確固たる位置づけとなり、本人の自覚・自信が生活充実へとつながっている。
4304	高齢者の作業拡大及び能力開発のための「タタラを使用した粘土造形」	加齢に伴う体力や身体の機能低下を考え、負担の軽減と共に高齢者の作業拡大及び能力開発のためのタタラを使用した作業種を導入したことにより、短時間で作品完成となり負担の軽減が図られた。
4305	作業種変更により著しく作業意欲が向上した事例(適正作業種の開発)	行動特性を考慮しながら計画を立てて指導したことにより意欲的な取り組みが見られ、積極的な作業態度で他生からも認められ自信につながった。
4306	自閉的で強いこだわりとパニックを心理治療で改善した事例	本人に関わりやすい日課を設定し、働きかけも統一したことと、心理治療を行ったことにより行動障害が減少し、情緒が安定した。
4307	無意欲で拒否的態度を心理治療で改善した事例	親和的人間関係が形成され、心理的に閉じこもった状態から意欲的に物事に参加行動することができるようになった。

5. 地域生活移行

番号	標 題	要 約
5308	生活動作訓練を中心として。現在結婚、一児の母として生活している事例	愛情の欲求不満、爪咬み、指しゃぶりなどの行動が多く、生活動作訓練を中心に援助した。11年後、授産施設に、その1年後グループホームに移行し、職場実習・家事実習を行い結婚後地域生活へ移った例。
5309	社会生活を望みグループホームに入居した事例	グループホームに入居するために職場実習を中断し自活訓練をする。自覚のある行動が見えてきたので実習を再開し、その後グループホームへ入居した。
5310	入所型施設を利用したSさんの家庭生活に向けての援助	給食実習を経て、就労したが退社の繰り返し。自宅より会社へ通うため自立訓練開始後、正社員として雇用される予定。
5311	集団生活の中から職場実習を積み重ね、地域生活(グループホーム)へ移行した事例	在宅養育不可能とのことで入所、早く就職したいとの希望があり、職場実習開始。園内で自立生活に向けたスキルの獲得と地域自活のイメージ作りを試み、退所しグループホームでの生活を開始、現在福祉的就労中。
5312	ダンボール作業を通して、勤労意欲の向上が図られた事例	児童相談所からの緊急保護より、8年間は生活遂行能力と人間関係の育成等を中心の援助、その後2年間は作業能力向上や職場実習等の援助を行った結果、地域生活への移行がはかられた事例。
5313	働く意欲が付き、生活意欲が向上してきた	入所後、身だしなみに重点をおいた援助を行うとともに、役割を決め責任感を養わせた。5年後、作業指導を開始し、1年後職場実習を行った。その後、グループホームに移行し、就職探しに入る。
5314	職場実習を通し、就労意欲と自立への意識の向上	児童施設からの措置変更から8年間、職場実習を基盤とした自活訓練の取り組みにより社会性・生活適応性の向上が図られ地域社会へ移行できた例。
5315	実習経験を通して自立への意識が高まった事例	社会生活能力は高いが、在宅期間が長く精神面で未自立なまま入所してきた。職場実習を通して対人関係の改善や精神面の自立を促し地域社会へと移行できた。
5316	集団生活を通して作業意欲、他者との交流等の向上が図られた	約12年の援助の中で、職場実習により社会生活・作業能力が向上し、地域生活(グループホーム)へ移行した例。
5317	園芸班、園外実習を通して就労に結びついた例	福祉事務所からの緊急保護により入所。自立訓練、職場実習を開始、社会生活能力を向上させ、地域社会へ移行した例。
5318	地域生活への移行のステップとして、ひとりで交通機関を利用し帰省できるまでの過程	標題と同様。
5319	園内での諸訓練を通して就労意欲の向上が図られた事例	他入所者へ関心を向けなかったが、数年を経過し、会話も見られるようになった。社会復帰をするために様々な体験をし、職場実習を開始する。その後グループホームに入居する。
5320	社会自立を目指して	職場実習により、具体的な形で自分の将来の目標が見えることによって本人の意識に変化が生まれ自分の目標のグループホームに入居することができた。
5321	情緒不安や社会不適應要因の軽減により地域社会への移行がはかられた事例	劣等感が強く自暴自棄な所の軽減を図り、施設に対しての意識改革をし実習を開始。その後、通勤寮に入寮し部品工場に就職をした。
5322	地域生活への移行とその援助過程について	集団の中で本人の個性は埋没されてしまうため、現在の通勤寮に入寮し、生き生きとした表情や笑顔も見られるようになった。これにより、施設生活から地域生活への移行は、本人にとっても大きな結果がでた。
5323	更生施設入所からグループホーム入居までの経過	入所後、作業訓練とし下請け作業を実施。作業にも慣れ社員寮に入寮する。その後、同園通勤寮へ入寮。そして、生活ホーム・グループホームへと入居する。心身障害者自立更生者としてH3.4.9年に表彰される。
5324	再就職に向けての取り組みについて	地域生活への意思が強く粘り強さもでてきたので、意思を尊重し、コミュニケーションを取ることで問題解決ができるようになった。その後、グループホームに入居する。

5325	さまざまな支援を得て地域生活を 実現させた例	入寮後、集団生活になじめず職員からの問いかけにも返答できなかったが、担当職員との関係が良くなっていく過程で自己決定があった。職場実習をし、本人・会社・職員の3名で独居生活決定した。
5326	グループホームに移り、周囲の人がサポートしたことにより一人で 帰省できることになった事例	実習先へ就職し通勤寮へ移動したが、人間関係のトラブルにより情緒不安定となり無断外出をする。情緒安定を取り戻すため家庭への帰省を繰り返し、本人1人で帰省ができ、生活においても落ち着いて行動ができるようになった。
5327	作業意欲の向上と就職をめざして の援助の過程について	手先が器用なため、基板のダイオード差しの作業を開始する。生活にも慣れ炊事実習を実習をしたが、生活面での乱れが出た。作業を室内から屋外へと移動。その後、職場実習を開始、通勤寮に入寮し、実習状態良好なので雇用。
5328	作業意欲の改善とその過程につい て	作業全般においては、集中力・正確さに欠ける面が見受けられるが、洗濯係に関しては、「自分の仕事」という意識が強く、指示がなくても行うようになる。それに伴って作業に対しても、こつこつとやる姿勢が見られるようになった。
5329	ゴルフ場での仕事を通して、自己 表現（意志表示）ができる様にな った	福祉事務所、学校より依頼を受け入所。はっきりとした意思表示ができるようになり、精神的な強さを身につける。その後、職場実習を経て就労する。
5330	就労する事により、規則正しい生 活が送れる様になってきた事	規則正しい生活習慣を確立し、他人の意見・助言を素直に受け入れることができるように援助をした。職場実習を得て就労し地域生活へ移行した。
5331	一般就労を通じて社会性・基本的 生活能力の向上がはかられた事例	施設での生活が長く、自分に自信を持たず、社会性が身に付いていなかったが、様々な生活経験を積むことで、自信を持ち基本的な生活能力も向上。そして、園外実習を経て一般就労をすることで社会性も身についた。
5332	農作業を通して就労意欲の向上が 図れた事例	生活面でのルーズさが見られたが、本人の口から実習といった言葉が出てくるようになり、作業面では向上が見られルーズさもなくなった。実習に向け自立訓練をし、職場実習を開始。その後、実習先で採用が決定。
5333	自由に外出・買い物ができるよう にするための援助過程について	視覚障害があり外出は常に職員引率であったため、自由に外出・買い物がしたいとの強い希望があり、指導の方法を考え援助した。その結果、自由に外出ができなかったのが、グループでの外出が可能となった。
5334	屋外での作業を通し根気力、持続 力が向上した事例	実習を開始したが、作業意欲のなさから実習失敗。情緒安定を図るとともに作業意欲・持続力の向上を図る。室内から屋外の作業変更により、作業意欲が向上し生活にもメリハリがつき、保護者の希望で再就労ができた。
5335	地域生活に移行できた者の具体例	家庭での養育では就労が難しいため、入所し職場実習開始。金銭面・友人・性的に問題があったが徐々に減少し、自治会のリーダーとなり、自主性・自発性・強調性が向上し、アパート実習を経て地域ホームへ入居した。
5336	情緒の安定を図り自立への意欲を 高めながら地域生活へ移行した事 例	家庭の愛情が薄いために情緒が不安定であったが、就労と安定と精神面での支えを図りながら自立への意欲をかきたて地域生活へ移行した。
5337	職場実習を通じて、勤労意欲と体 力向上が図られ就職できた事例	体力不足により、ジョギングを開始。体力的にも向上したので職場実習開始。時間にルーズなため、自活訓練をする。職場実習を再開するが、人間関係の問題等により中止。現在の職場で実習し、就職する。
5338	二度の職場実習を通して就労し地 域生活へ移行した例	就職・自活を目標に設定し、職場実習を開始する。性的問題を起こし、就職実習を中断したが、約7年の援助で地域生活へ移行した。
5339	地域生活に移行した事例	福祉的就労として、入所中と同じ授産作業に従事しながらグループホーム生活に移行し、1年が経過したが生活面・健康面ともに問題なし。本人は、グループホームで生活することができ喜んでいる。
5340	自活訓練、職場実習を通して勤労 意欲の向上が図られ地域生活へ移 行した事例	2度も就職に失敗し、社会生活が困難と思われたが、再度の施設入所を通して生活の楽しみ方や人間関係・身辺面の向上を図り、生活・作業訓練を積み重ねることで自立への願望と就職への希望がさらに強まった。

5341	園外実習や就労活動相互支援事業の活用により社会自立への向上が図られた事例	本人の取り組む姿勢や変化を通して、職員の意識の変革が図られ、さらに他の利用者に対しても、園外実習などにより社会参加に向けた着眼点が得られた。
5342	てんかん発作をコントロールして地域に移行した事例	発作のコントロールができたことにより、新しい場面にも自信を持って行動する様になり、職場実習を通して就労につなげることができた。
5343	長期入所者に対し地域移行（社会自立）の目標を掲げ、目標達成にむけての段階的援助を設定し、目標達成を実現した事例	職場実習を開始したが、対人関係でトラブルが起こった。本人への理解と信頼関係を築けるよう、職場訪問の回数を増やした。グループホーム移行のために自立訓練を開始。実習先へ就労し、グループホームに入居した。
5344	就労の失敗で長期入所が適当として措置された重度障害者の社会自立への援助	施設退所後の就労に失敗し、実家に戻って生活中に問題を起こし、福祉事務所から緊急に措置され、約20年間の施設生活の後、グループホームでの地域生活に移行できた。
5345	入所から自活訓練、グループホーム入居に至るまでの指導と経過について	ほとんど会話をせず、無口なため対人関係がなかった。職場実習を開始、自活訓練を開始し、グループホーム入居となる。
5346	施設生活から就労・地域生活に向けて	社会生活をしていく上で数々の問題が生じ、1つ1つ解決した。その都度対応し、問題を残さず次のステップとして行くことが意欲や希望へとつながった。
5347	職場実習から就労へ移行した援助過程について	ハローワーク主催、障害者の就職相談会に出席し2社より求人の申し出があった。通勤訓練をし、実習開始。施設退所後、作業態度・人間関係等の問題により実習を中止し、再度施設入所となる。
5348	てんかん発作の軽減と自立へ向けての援助について	2度の入院の結果、本人にあったてんかん薬により安定してきた。今までは母親だけが対応していたが、本園入所し、グループホームに移行後、スーパーでの仕事と幅広い人間関係・自立への1歩が踏み出した。
5349	施設から就労、そして地域への移行について	職場実習によって本人のやる気が十分に引き出された。今までに経験したことのない社会生活によって集団における協調性・相手への思いやりが芽生え、交友関係も家庭だけでなく、施設・職場と広がりがでてきた。
5350	施設での援助の結果、地域生活に移行できた者の事例	施設の作業班での作業訓練により作業能力の助長・職場実習の積み重ねが、自信・自覚につながり、望んだ地域生活（就職自立）への移行がはかられた。
5351	地域生活者が失業し再就職までの支援について	知人などから再就職情報を収集し、1ヵ月間の実習を経て再就職が決まった。問題点もあるが良い点を認め伸ばす様にしながら地域生活を維持できるようにはかった。
5352	自活訓練を通じて福祉工場に就職した事例	実習先の福祉工場の協力で本人の長所を伸ばす対応を継続し、自由時間は施設の友人と接する等精神面を安定させた結果、自立意識が確立した。
5353	職場実習を通して地域での生活に要する社会生活能力の向上が図られた事例	要求を一度は受け入れ、その後アドバイスするという方法で対応した結果、理解が得られた。外出の機会を増やし、社会生活の意欲も芽生えた。
5354	マンションを利用した独立生活	安定した就労の継続により、生活スキル・社会性・仲間を確立し、責任感が生じると共に余暇時間の有用等、自己実現に至った過程。
5355	マラソンによる体力作りを通し出身地域とのネットワークを作ることによって地域社会への移行がはかられた事例	マラソンによる体力増強で自信をつけ、人間関係が拡大した。また地域が関心を持って課題として取り上げて行動していったことによりネットワークが確立・整備された。

平成10年度厚生省障害保健福祉総合研究

知的障害者施設における援助技術の
体系化に関する研究

事例集

主任研究者 手塚直樹

平成11年3月発行

編集 国立コロニーのぞみの園

印刷 朝日印刷工業株式会社
